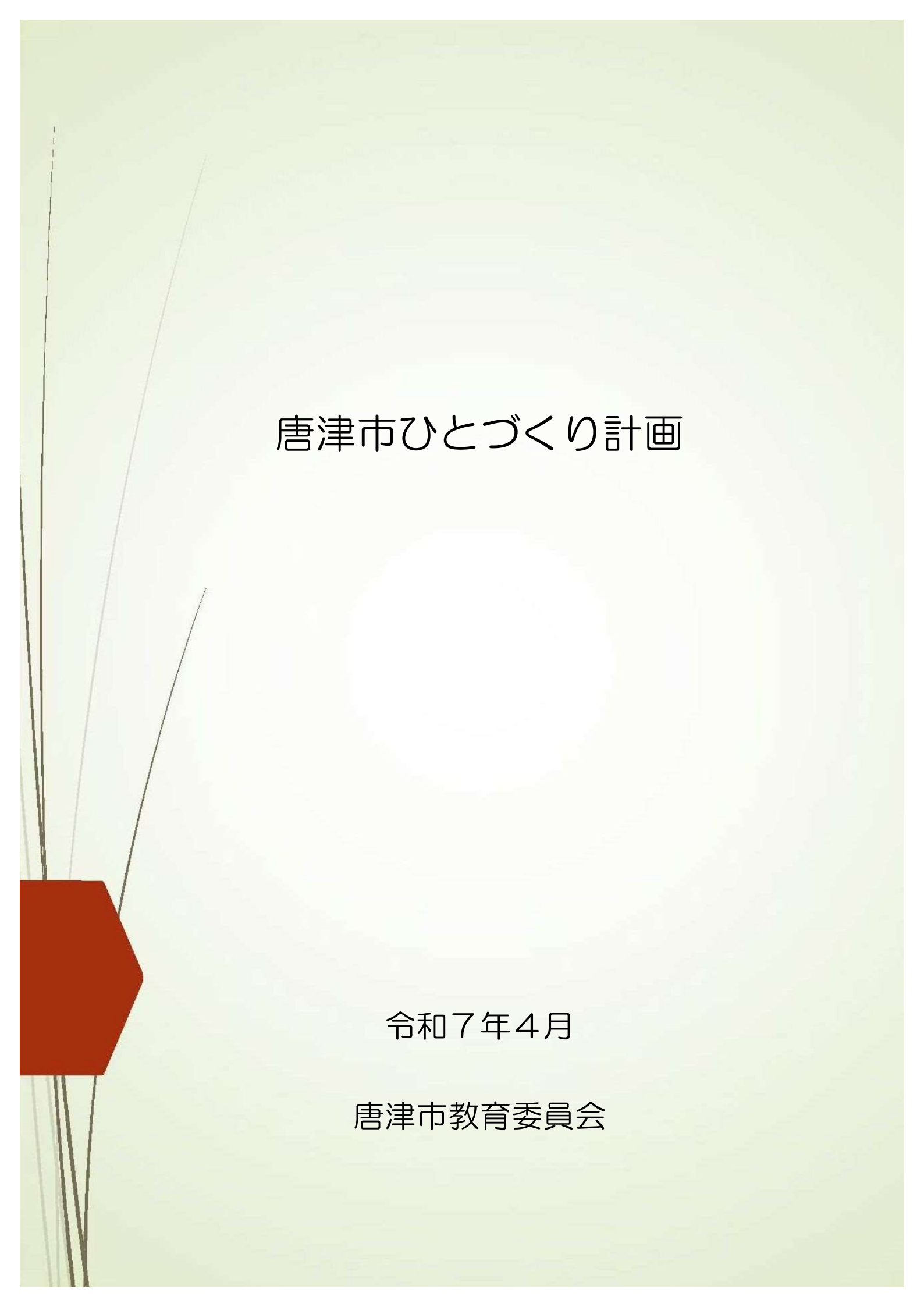




唐津市ひとづくり計画

令和7年4月

唐津市教育委員会

目 次

第 1 章 計画策定にあたって

- 1. 計画策定の趣旨1
- 2. 計画の位置づけ2
- 3. 計画期間2

第 2 章 計画の基本的な考え方

- 1. 基本理念3
- 2. 基本目標4

第 3 章 青少年への意識調査の結果 5

第 4 章 現状と重点課題 1 2

第 5 章 施策の体系 1 4

第 6 章 施策の内容 1 5

第 7 章 評価の指標18

第1章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

現代においては、全国的な少子高齢化に伴う地域行事の衰退や担い手不足、地域の人と人とのつながりの希薄化が進行し、地域人材の育成が大きな課題となっています。

本市では、全国学力・学習状況調査の意識調査において、児童・生徒の地域との関わりに係る設問については全国平均を上回る結果となっており(※1)、小中学生の間は地元志向が強い傾向であるものの、実際には10～20代の若者の転出超過が続いている状況であり、地域人材の育成や次代への引継ぎが課題となっています。

こういった状況を打開するには、これからの地域を担う活力ある若者、また、唐津を愛する若者を育てることが重要であり、そのためには、幼児期から様々な体験を通じて地域の「ひと」と関わり、地域の「ひと」を好きになり、そういった「ひと」と「ひと」がつながることが大切であると考えます。

学校・家庭・地域社会が一体となり、幼児期から青年期を迎えるまでに大人が切れ目なく関わることにより、その子どもがやがて大人の立場として地域の子どもの成長に関わっていくという「ひとづくりの好循環」を生み出すために、「唐津市ひとづくり計画」を策定します。

(※1)令和5年度結果(各設問「当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答した割合)

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
【全国】 小学生57.8% 中学生38.0%
【本市】 小学生68.1% 中学生44.5%
- ・「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」
【全国】 小学生76.8% 中学生63.9%
【本市】 小学生79.0% 中学生67.0%

2. 計画の位置づけ

本計画は、「唐津市教育大綱」の基本方針の1つ「郷土愛を育み 心豊かな人づくり」の中でも、特に社会教育や地域人材育成に着目し、具体的な施策展開の方向付けをするための計画として位置付けています。

3. 計画期間

本計画の期間は、「唐津市教育大綱」と同様に令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

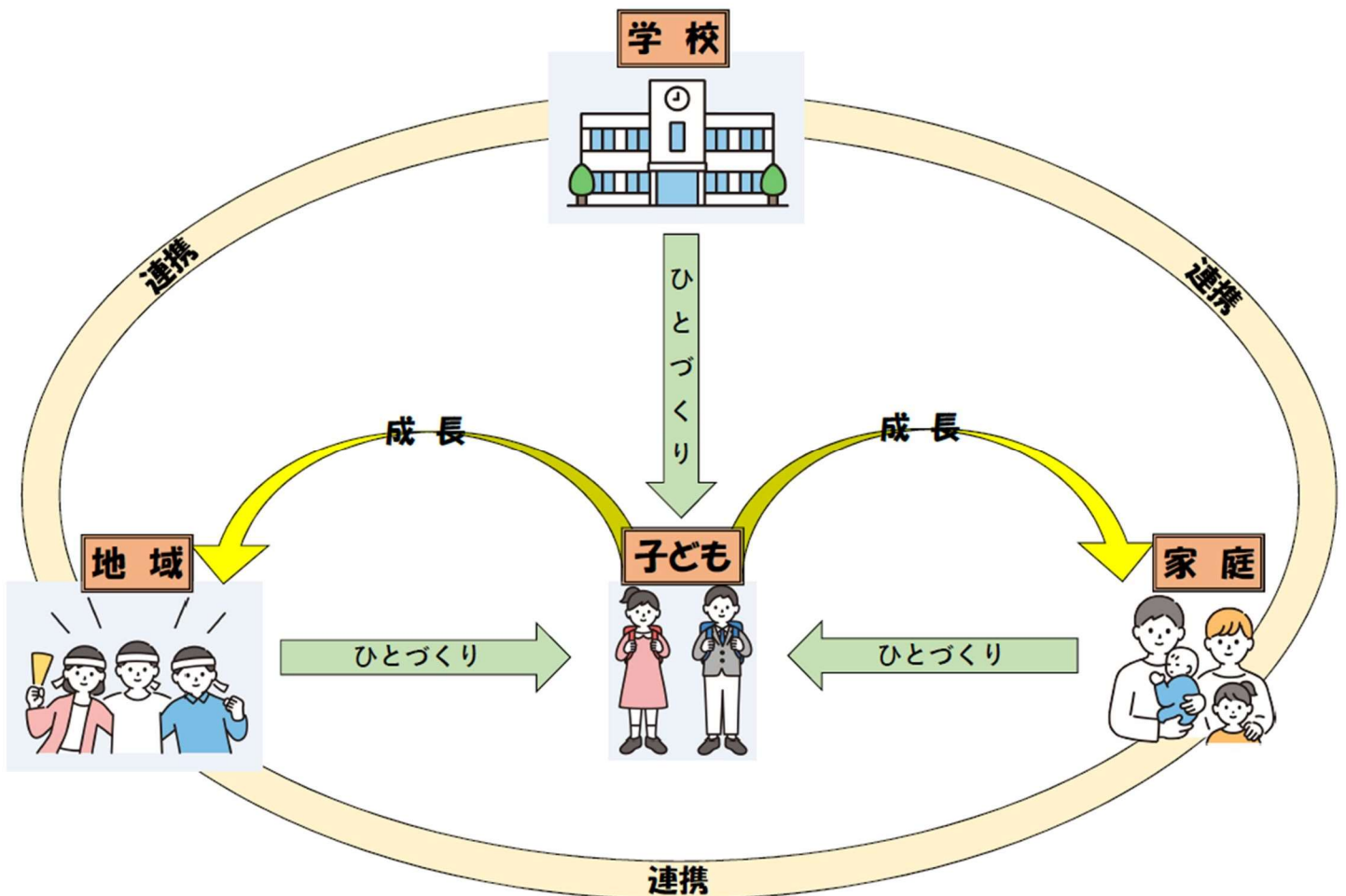
第2章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念

唐津大好き、引き継いでいくひとづくり

「唐津市教育大綱」の基本理念である「唐津を愛し 未来をひらく 人をはぐくむ」を踏まえ、唐津を愛し、担い、発展させる「ひと」を育て、その「ひと」が地域や家庭の一員としてまた「ひと」を育てるという「ひとづくりの好循環」を目指します。

ひとづくりの好循環のイメージ



2. 基本目標

基本理念の実現のため、次の2つの基本目標を柱とします。

なお、基本目標達成のためには、地域づくりや移住定住促進関連の考え方も取り入れる必要があるため、関連部署との連携強化も図ります。

【基本目標1】 子どもを育む体験活動をとoshitひとづくり

今後の唐津を担う「ひと」が育つためには、子どものうちから地域の大人と関わりつつ様々な体験活動をとoshit「ひと」として成長し、また、「ひと」と「ひと」がつながることが重要と考えます。

社会教育団体や体験活動を行う民間団体への支援、市主催事業等の実施により体験活動の充実を図り、体験を経験に変える仕組みや「ひと」と「ひと」がつながるための環境をつくることにより、ひとづくりを推進します。

【基本目標2】 住み続けたい・戻りたい唐津愛の醸成

唐津に住む若者がこれからも住み続けたいと思うよう、また、市外に出た若者が一人でも多く唐津に戻ってきたいと思うよう、地域の「自然」「文化」「ひと」の魅力を伝えることにより、郷土愛を醸成するための環境をつくります。

第3章 青少年への意識調査の結果

本計画の策定にあたり、本市で暮らす青少年が、これまでの「ひと」との関わりをどう評価し、将来大人になったあと「唐津」、「地域」、「ひと」とどう関わる意向であるのかなどを把握するため、次のとおり市内の青少年に対し意識調査を実施しました。

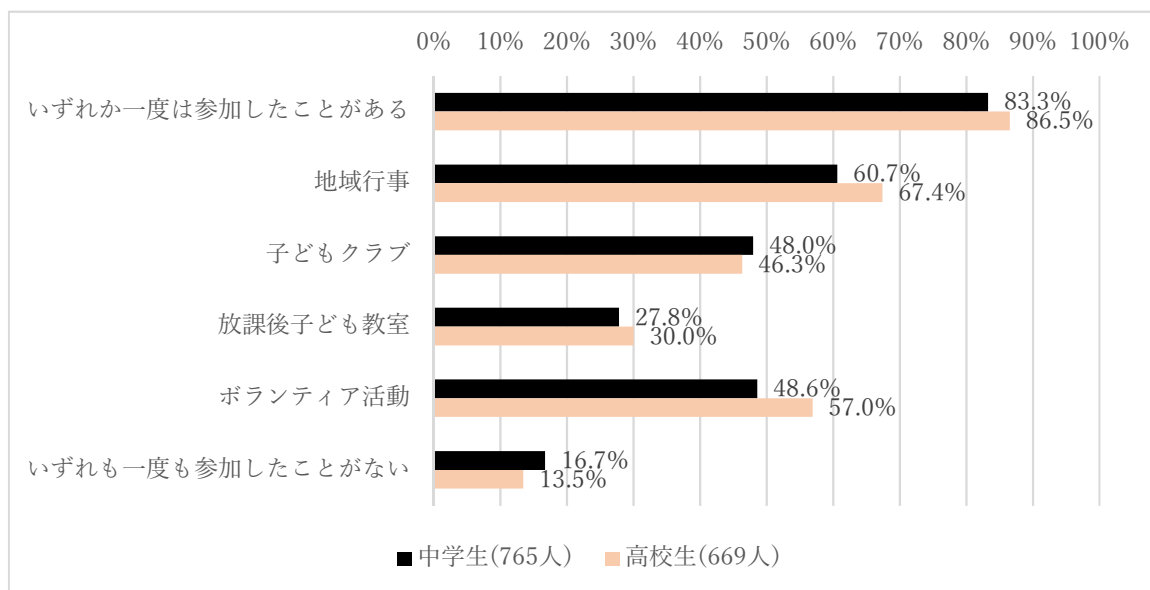
調査実施期間	調査方法	調査対象	調査対象者数	回答数(回答率)
R6.11.25 ～R6.12.6	学校に協力要 請し、生徒が web 上で回答	中学2年生	約 1,116 人	765 人(68.5%)
		高校2年生	約 1,164 人	669 人(57.4%)

その結果は以下のとおりです。

1. 体験活動等への参加経験

「地域行事」が最も多く、次いで「ボランティア活動」、「子どもクラブ」、「放課後子ども教室」の順となっています。

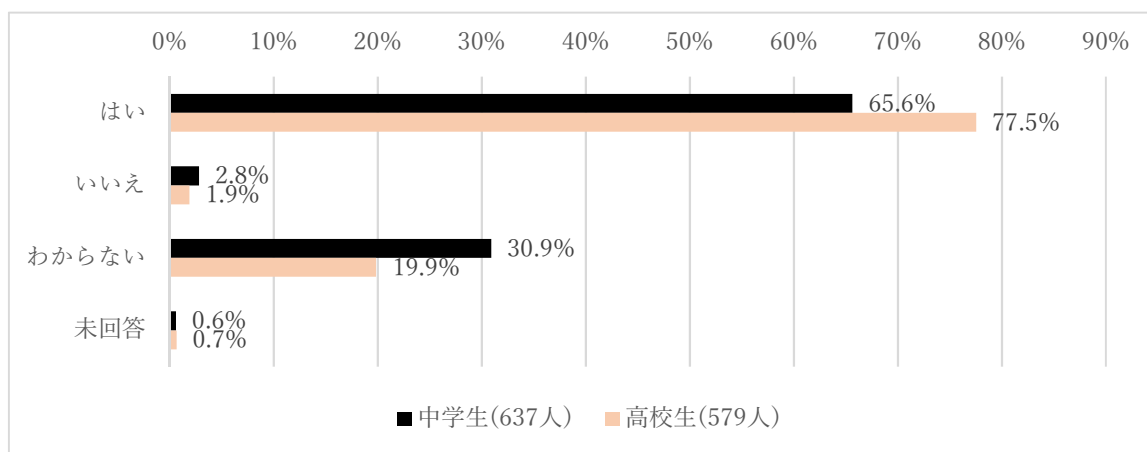
問) 学校外で実施される様々な体験活動について、幼少期から現在までに一度でも参加したことがあるもの(複数選択)



2. 成長の実感

「はい」が、中学生で 65.6%、高校生で 77.5%と、子ども自身が成長を実感できたものだけでも約7割と、高い割合となっています。子ども自身の実感としては「わからない」または「いいえ」であっても、客観的には成長に繋がっている可能性もあります。

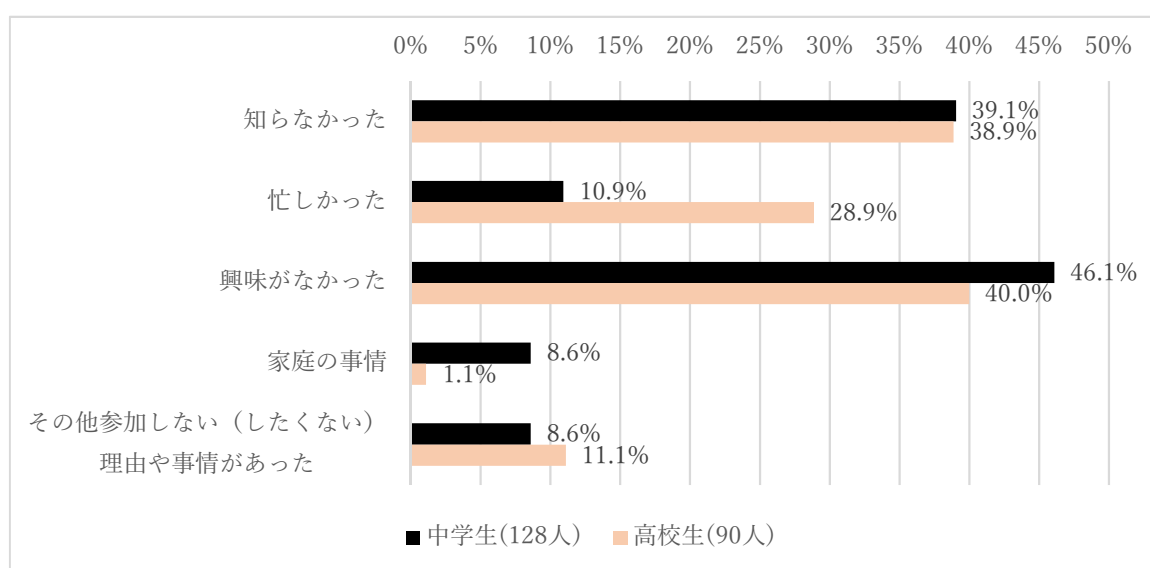
問) 上記1で参加した様々な体験活動で、普段は経験できないものや、普段はあまり馴染みのない地域の年上の人や大人との会話や交流をとおして、人として成長できたと思うか



3. 不参加の理由

「興味がなかった」が最も多く、次いで「知らなかった」、「忙しかった」の順となっています。他の習い事に通う割合や、学校外での過ごし方の変化など、時代背景の変容が調査結果に関連している可能性も考えられます。

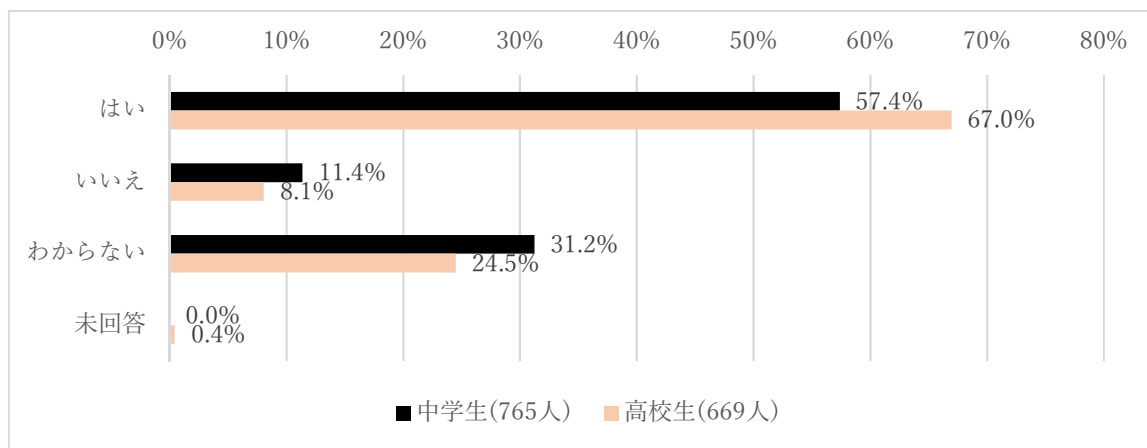
問) いずれも一度も参加したことがない理由について、あてはまるもの（複数選択）



4. 将来の地域での存在

「はい」が、中学生で 57.4%、高校生で 67%となっています。高校生のほうが 9.6 ポイント高いことから、中学生が高校生になるまでの3年間で、リーダーシップの感性や郷土愛などが育まれているものと考えられます。

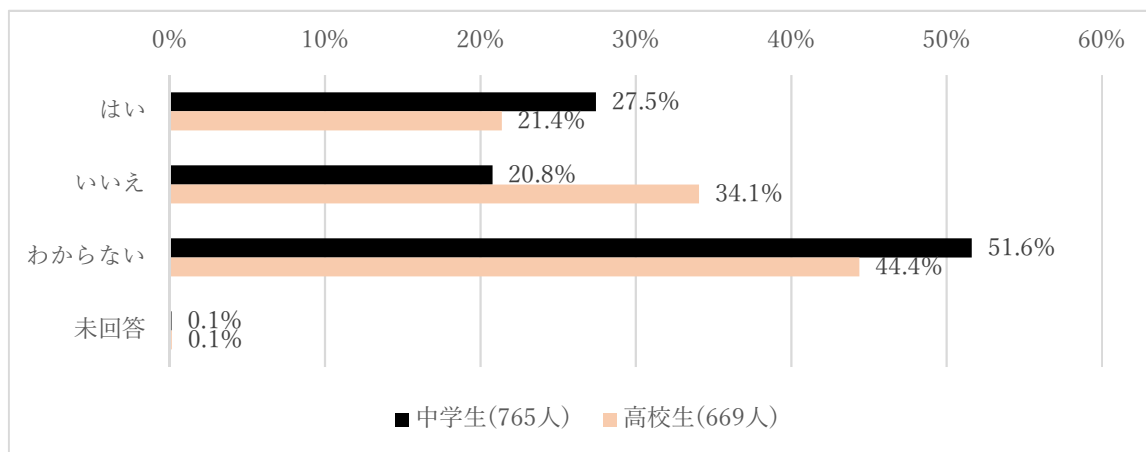
問) 将来大人になったとき、地域行事の運営や手伝い、地域内の子どもとの交流や指導、お年寄りの方への手助けなど、地域で頼られる存在になりたいと思うか



5. 定住等に関する意向

「はい」と「いいえ」に着目すると、中学生では「はい」が「いいえ」の1.32倍であるのに対し、高校生では「いいえ」が「はい」の1.59倍であり、大きく逆転しています。これは、進学や就職面などについて、高校生のほうがより具体的かつ現実的に考えた結果が反映されているものと考えられます。

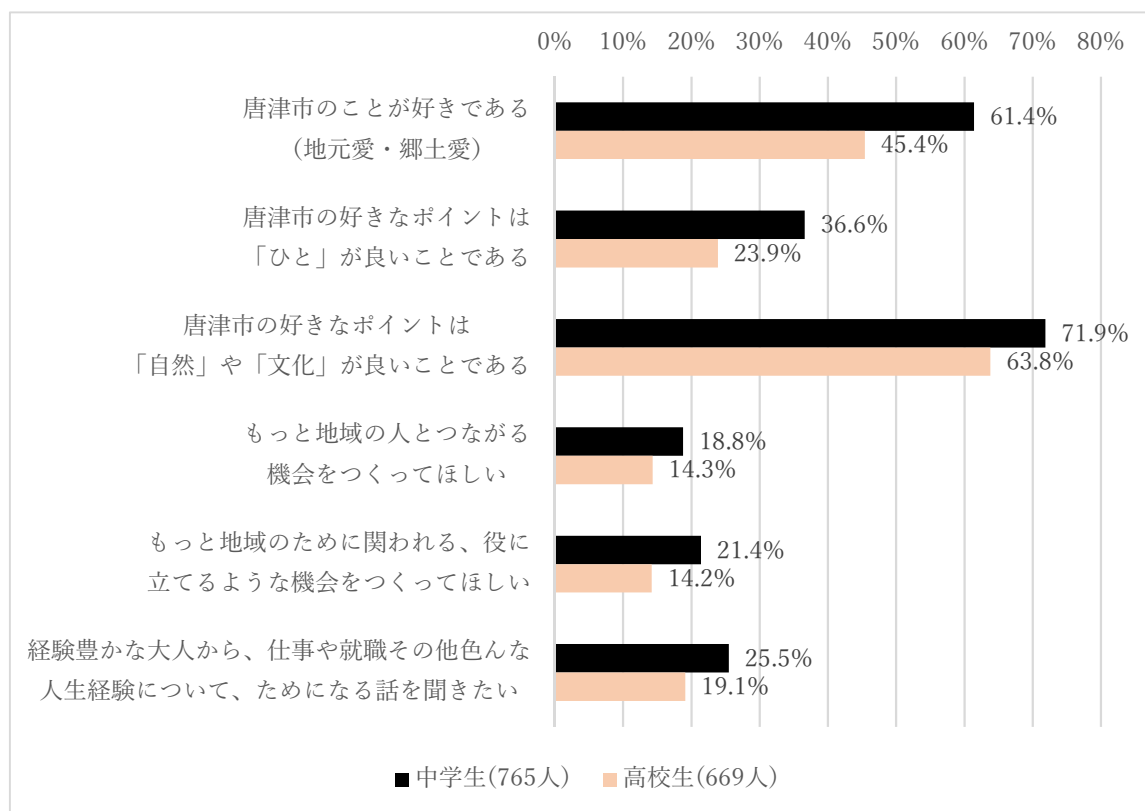
問) 進学や就職などで一度は唐津を離れたとしても、最終的には唐津に住み、暮らしたいと思うか



6. 唐津に対して感じていること

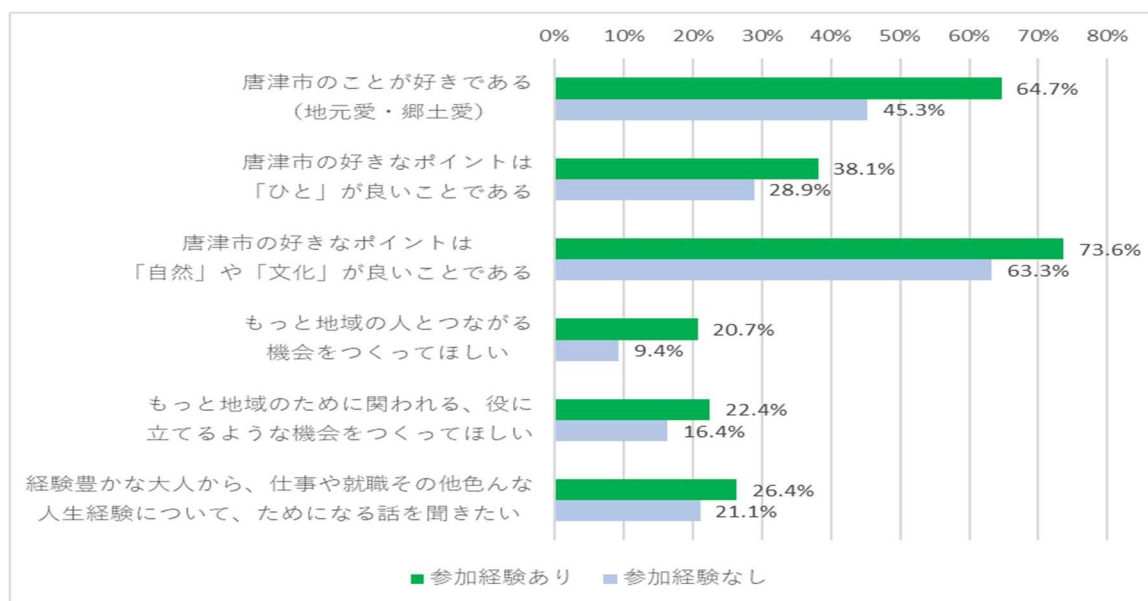
中学生では1人当たり平均2.3個、高校生では1.8個を選択しています。選択肢は全てポジティブな内容であるため、選択数が多いほど、唐津に対して良い印象や期待、積極的な姿勢を持っていると言えます。

問) この唐津市に対して感じていることについて、該当するもの(複数選択)

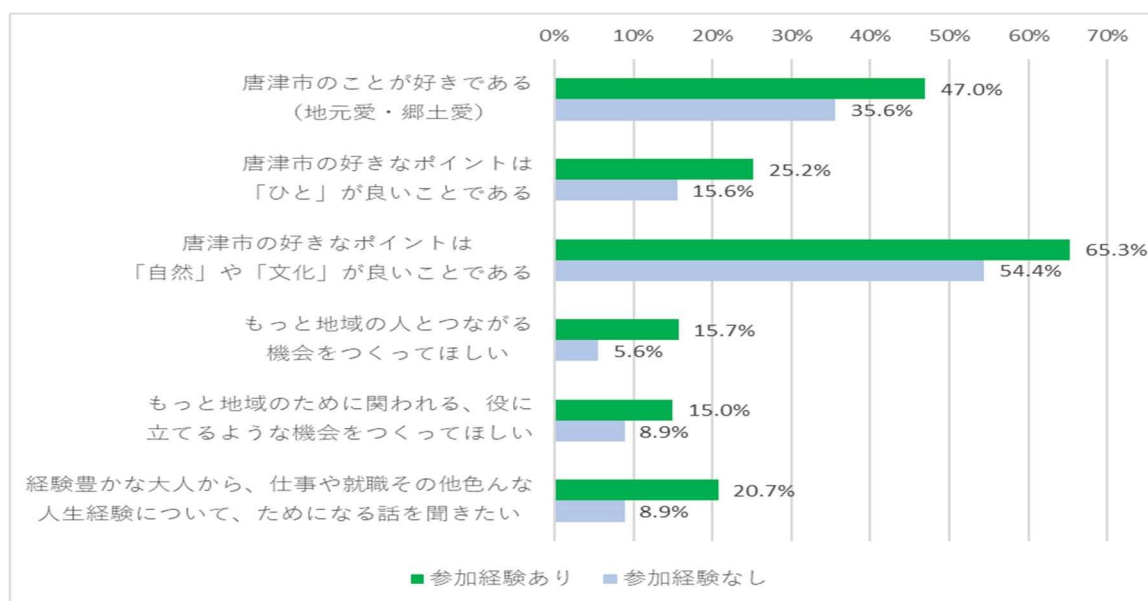


更にこれを、「1. 体験活動等への参加経験」の結果を基に「いずれか一度は参加したことがある」と「いずれも一度も参加したことがない」に分けてクロス集計すると、次のように全ての項目の選択率において「参加経験あり」が「参加経験なし」を上回る結果となっており、体験活動などによる様々な経験が、郷土愛の醸成などに影響をもたらしていると考えられます。

＜中学生＞



＜高校生＞



第4章 現状と重点課題

第3章の意識調査の結果を見ても、「ひとづくりの好循環」を十分に機能させるためには、現状として多くの課題があるといえます。本市では、特にその中でも次の2点を重点課題として位置づけ、積極的な対策を行っていきます。

1. 現状と重点課題

(1) 体験格差の是正

近年問題となっている「体験格差（休日などに学校外で行われる体験機会の格差）」は、家庭環境や地理的状况など様々な要因がありますが、共通して「金銭的要因」が関わっていると言われています。

低額または無償で参加できる体験行事を充実させ、この「金銭的要因」を極力解消することで、市としてより多くの子どものひとづくりに関わっていくことが求められています。

(2) 住み続けたい・戻りたい唐津の理由づくり

若者が地方を離れ都市部へ流れる主な理由は雇用や利便性の面と考えられますが、本市としては、幼少期から唐津が持つ魅力を肌で感じ、「このまちが好き」、「このまちで活躍していきたい」という気持ちが芽生えるなど、若者が地元唐津に「残る理由」をたくさんつくることが重要と考えています。

2. 重点課題の解決に向けた事業展開

(1) 低額または無償で参加できる体験行事の充実

現在市が主催の体験行事として、たくましいからっ子育成事業におけるポニーふれあい体験出前教室や各種チャレンジスクールを実施しています。開催数の増加や参加枠の拡大、これ以外のメニューの追加など、更なる充実を図ります。

(2) 唐津の魅力と触れ合う機会の充実

唐津が持つ魅力を肌で感じ、「愛着」や「一体感」を育むため、体験活動や伝統行事をとoshた、ひと、地域、伝統、自然と触れ合う機会の充実を図ります。具体的には、社会教育団体への支援の充実や、地域の伝統行事の担い手不足等の諸問題に対し、課題解決支援講座の活用などで各種団体と行政が一体となり、解決に向けた支援を行っていきます。

第5章 施策の体系

第2章の基本理念の実現や基本目標の達成、第4章の重点課題の解決のためには、施策を次のように体系的に管理し、目的を明確にしたうえで実行していくことが重要です。

目標	No.	事業名	主なターゲット				
			幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	青年期
【基本目標1】 子どもを育む体験活動とおもいたひとづくり	①	社会教育団体補助金	○	○	○	○	○
	②	たくましいからっ子育成事業	○	○	○		
	③	放課後子ども教室推進事業		○			
	④	家庭教育支援事業 (中学校子育てサロン)			○		
	⑤	公民館事業	○	○	○	○	○
	対象事業数		3	4	4	2	2
【基本目標2】 の住み続けたい・戻りたい唐津愛	①	二十歳の祝典の開催					○
	②	高等学校等の 「総合的な探究の時間」との連携				○	
	③	「いきいき学ぶからっ子」 育成事業		○	○		
	④	「わたしたちの唐津市」配布		○			
	⑤	伝統文化に関する補助金	○	○	○	○	○
	⑥	課題解決支援講座			○	○	○
対象事業数		1	3	3	3	3	
対象事業数計		4	7	7	5	5	

第6章 施策の内容

【基本目標1】子どもを育む体験活動をとoshitひとづくり

1－① 社会教育団体補助金

地域婦人連絡協議会、PTA連合会、各地区子ども会、各地区青少年育成協議会、各地区青年団、ボーイスカウト各団などの社会教育団体における運営や各事業に対して補助金を交付し、団体の活動を支援します。また、各団体の独立性を損なわない範囲で、支援の充実化を図ります。

1－② たくましいからつっ子育成事業

ポニーふれあい体験出前教室や各種チャレンジスクールなどを実施し、唐津の自然や文化に触れることで、青少年の情操育成、郷土愛の醸成を図ります。また、1泊2日以上宿泊体験事業を実施する団体に補助金を交付し、団体の活動を支援します。今後は開催数や参加枠の拡大、メニューの追加など、更なる充実を図ります。

1－③ 放課後子ども教室推進事業

放課後や週末に、サポーターという形で地域住民の協力も得ながら、子どもと共に勉強、スポーツ、文化活動、地域住民との交流などの取り組みを実施します。

1－④ 家庭教育支援事業（中学生子育てサロン）

中学生が主体となり、地域の乳幼児とその保護者を対象に、子育てサロンを開催します。教師とその他地域住民は、サポーターとして参加します。おむつ交換やミルクを飲ませるなどの体験や保護者への質疑をとoshite、命の大切さ、家族や地域への感謝の心を育み、同時に保護者の孤立化防止

や地域の結びつきの強化を図ります。

1－⑤ 公民館事業

公民館主催で、料理教室や郷土歴史教室、ものづくり教室などの各種講座を開催し、学びの場の提供と共に住民同士の交流や地域のつながりの強化を図ります。また、会議室やレクリエーションルームの貸し出し、夏祭りの実施などをおして、年代を超えたふれあいの場の提供を行います。

【基本目標2】住み続けたい・戻りたい唐津愛の醸成

2－① 二十歳の祝典の開催

旧成人式を継承するものとして、毎年1月に二十歳の祝典を開催します。地元への愛着を深めるとともに、市外転出された方の参加も受け入れることにより、地元唐津の魅力を再認識するきっかけづくりを行います。

2－② 高等学校等の「総合的な探究の時間」との連携

高等学校等の「総合的な探究の時間」と連携し、本市が行政として抱える問題や課題の解決策について生徒が1年間研究し、普段強く意識はしていない地元唐津の特性や弱み、魅力や強みをあらためて考えるきっかけを作り、郷土愛の醸成に繋がります。

2－③ 「いきいき学ぶからっ子」育成事業

各小学校区や中学校区で組織する実行委員会に補助金を交付し、学校、家庭、地域が連携し地域特性を活かした様々な活動に取り組むことで、自ら学び成長意欲に満ちた児童生徒の健全育成を図ると同時に、郷土を愛する豊かな心を育みます。

2－④ 「わたしたちの唐津市」配布

小学 3 年生を対象に、唐津の歴史、文化、風土を学ぶための副読本を配布し、授業の中で郷土への愛着と誇りを醸成します。

2－⑤ 伝統文化に関する補助金

伝統文化の継承や伝承を行う団体に対して補助金を交付し、団体の活動を支援します。市内の伝統文化を守り、郷土愛の醸成や人とのつながり、後継者の育成を図ります。

2－⑥ 課題解決支援講座

各地域が抱える課題に関し、団体や地元住民に対し課題解決支援講座を開催します。県が配置する課題解決専門チームと連携し、根本解決に導く具体的な提案や問題提起を行い、団体や地元住民がより地域と向き合い、最終的には自分たちの力で持続可能で発展性のある地域づくりができるよう支援します。

第7章 評価の指標

第2章に規定する基本目標の達成度について進捗管理をするため、本計画の評価指標を設定し、今後の経過を管理していきます。

1. 活動指標（アウトプット指標）

対応する 基本目標	活動指標	R6年度 実績見込	R11年度 目標
基本目標1	体験活動等の開催数	1,454 回 (※2)	1,700 回
基本目標2	体験活動等の参加子ども(※1)数 (延べ人数)	22,562 人 (※2)	26,000 人
基本目標2	歴史講座の開催数	15 回 (※3)	20 回

(※1) 高校3年生以下

(※2) 社会教育団体等における活動、市委託事業における活動、市が直接実施する活動全ての合算値

(※3) 唐津城石垣再築整備事業に伴う特別開催分の6回を除く

2. 成果指標（アウトカム指標）

成果指標は、体験活動をとおした「ひと」としての成長や、唐津や地域の「ひと」やつながり、リーダーシップなどにポジティブな考えを持つ青少年（市内の中学2年生、高校2年生）の割合とし、アンケート調査で「はい」と回答されたものを集計・計測します。

対応する 基本目標	項目	R6 年度 実績	R11 年度 目標
基本目標1 基本目標2	「学校外で実施される次の活動（地域行事、子どもクラブ、放課後子ども教室、ボランティア活動）に一度は参加したことがある」	84.9%	90%
	「学校外での様々な体験活動をとおして、人として成長できたと思う」	71.3% (※1)	80%
	「将来大人になったとき、地域行事の運営や手伝い、地域内の子どもとの交流や指導、お年寄りの方への手助けなど、地域で頼られる存在になりたいと思う」	61.9% (※2)	70%
	「進学や就職などで一度は唐津を離れたとしても、最終的には唐津に住み、暮らしたいと思う」	24.6% (※3)	35%

(※1) 学校外で実施される次の活動（地域行事、子どもクラブ、放課後子ども教室、ボランティア活動）に一度は参加したことがある生徒 1,217 人中 868 人＝71.3%

(※2) 全調査対象生徒 1,434 人中 888 人＝61.9%

(※3) 全調査対象生徒 1,434 人中 353 人＝24.6%

なお、「いいえ」は 27.0%、「分からない」は 48.3%、未回答は 0.1%

